

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・フィールドワークや地図記号カルタ、都道府県カルタなどを活用することは、基本的な知識を身に付けることに効果があった。
- ・資料から読み取る問題については、目標値に対して同程度の正答率の項目がいくつか見られた。

(2) 課題

- ・5学年においては、ほとんどの項目で目標値に対して下回っている。4・6学年も約半数の数値が目標値に対して下回っている。
- ・資料を活用し、考えを表現する問題に対して、どの学年も正答率と回答率が低い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	△「工場の仕事」の資料問題の正答率は、目標値を上回っている。 ▽上記以外の問題の正答率は、目標値に対して下回る数値が多かった。		
第5学年	△「愛知県の工業の様子」や「特色ある産業」の資料問題は目標値の近似値である。 ▽それ以外の問題については目標値を下回った。	▽安全な暮らし、市の子の移り変わりの理解、思考・判断の問題の正答率が目標まで達していない。 ▽資料を読み取り表現したり、考えたりする問題の正答率が低い。	
第6学年	△情報産業と自然環境の分野は、ほとんどの項目が目標値の近似値である。 ▽上記以外の項目は、目標値に対して下回る数値が多くある。	△資料から分かったことを、読み取って判断する問題の正答率が目標まで達している。 ▽人々の生活環境に関する理解に関する問題の正答率が目標まで達していない。	▽地図記号や商店、昔のくらしの理解を図る問題の正答率が目標まで達していない。 ▽資料の内容を理解して考察する問題の正答率が低い。 (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と同等か下回っている問題が多い。 ・写真や年表から様子などを読み取る問題は、目標値より下回っている。	・資料を基に考えたことを記述する問題は、無回答の割合が半数近くおり、正答率が低い。	・目標値より下回っている問題が多い。 ・複数の資料を基に考え表現する問題は、資料の読み取るポイントを抑えて指導する必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5学年においては、3観点のどの問題も目標値を下回った。既習事項の知識の定着が課題である。 ・6学年においては、多くの問題では、目標値を下回るものが多かった。名称や社会的事象への理解を深めることが必要である。	・5年生においては、記述の問題が特に大きく目標値を下回った。 ・資料を読み取り、問題に対しする考えを書く問題では正答率が下がるだけでなく、無回答の割合が高くなる。	・記述問題では誤答や無回答が増えた児童の割合が多い。 ・発展的な問題になるとより無回答が増えるため、「問題を読みとってみよう」「立式を考えてみよう」という意識を高める必要がある。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地図記号や都道府県の名義について、実際の地図から読み取ったり、カルタなどを活用したりして、何度も振り返ることが必要である。 ・都道府県に関しては、名称だけではなく、各県の位置も押さえる必要がある。そのため、日頃から地図帳を活用し、各都道府県の位置を調べる必要がある。 ・まとめの活動では、言葉で端的にまとめられるように、資料の読み取るポイントを指導する。	・単元全体を通して学習問題への意識を付ける為、授業中に学習問題を振り返る時間を設ける。 ・調べる学習では、資料を精選し、資料から分かることは何かじっくりと時間をとり、考えられるようにする。 ・複数の資料を活用する際には、同じ点、違う点等視点を明確にして考えて読み取るようにする。	・フィールドワークや授業協力者等を活用し、実物に触れる機会を設けることで児童の関心を高める。 ・調べ方や調べる順番などを児童に選択・判断させる等、児童が自由に調べられる準備を行い、授業展開をする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・新出の社会的用語が出たら、確実に板書してノートに書かせながら、理解する必要がある。 ・単元後には、単元を振り返られるようなプリント課題などに組み、既習事項が理解できているかを確認する必要がある。 ・地球儀や年表をなどの具体的な資料を活用し、資料を読み取る技能を身に付ける必要がある。	・資料集や地図帳などの補助教材は常に身近に用意し、学習の中で意図的に活用していく。 ・資料の読み取りでは、様々なグラフや表の見方や考え方を指導する。 ・複数の資料から共通して読み取れることを考える時間をつくり、考えに根拠をもつ学び方を育成する。	・既習事項を生かしたり、身近な生活に置き換えた考え方ができるように、単元の導入を工夫したり、一単位時間を工夫したりする。 ・単元の終末では、新聞や、ポスター、カルタ、自作年表など単元のまとめ方を工夫する。まとめかたは単元の導入や中盤までに児童と合意形成を図り、単元の学習が自分事になるようにしていく。